

R2年度流山市一般会計補正予算(第4号)について、賛成しますが、討論で課題を提起します。委員会審査で、学校の引き渡しは、2月28日～5月31日へ、大きくずれ込むことになりました。また地中からガラも発見されました。まず、教職員はもとより、通うことになる児童、保護者のみなさんに、誰からも、一言もお詫びがない事態をそのままにしておく事はできませんので、私から心よりお詫び申し上げます。

4月からの利用に際し、工事中ながら、教職員、児童の大変ご迷惑をおかけしますが、安全対策の徹底は何よりも増して、この場からも強く指摘するとともに、開校準備を含め、開校作業に向け、全庁で、全てを「やりきる」、「やり抜く」立場で業務にあたることを強く求めます。

議案の内容も含め、これらの責任は担当課だけの問題ではありません。

第1に、全国1, 2を争う過大規模校の計画となっていること。

第2に、子どもが増えている地域から、大きく離れた場所で、かつ、保全すべき調整区域での立地としたこと。

第3に、施設の老朽化だけではなく、新築及び増築など業務が集中しているにもかかわらず、新たな部設置は昨年4月まで遅れてしまったことなど、市長の失政や判断ミスにおおもとの原因があります。

さらに今、コロナ禍の下で、新しい生活様式も提起される中、手洗い場そのものも足りない学校が本市内で残されています。「少人数学級の拡大」という、教職員、児童、保護者の願いに応えれば、本市独自の学校配置、規模の考え方は、おおもとから見直しが迫られることも予測されます。今議案を契機に、改めて、適正規模、適正配置の計画策定を求めて、賛成討論を終わります。